

# 第3章 町民意識（町民アンケート結果等の概要）

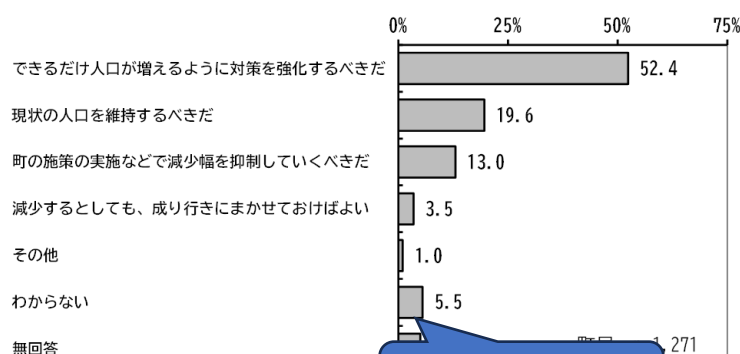
## 結果の見方

人口減少に対する危機感は強い

結果のポイント

設問：今後、山北町の人口対策をどのようにしたら良いと思いますか。（○）

設問



結果の図表

今後の山北町の人口対策は、「できるだけ人口が増えるように対策を強化するべきだ」が52.4%と最も多く半数を超えています。

町民からは人口増加対策を求められていると言えます。

結果

## 町民アンケート

### <調査概要>

#### ●調査方法

調査期間：令和5年2月14日～3月6日

調査対象：満18歳以上の町民

抽出方法：無作為抽出

調査方法：郵便配布・郵便回収

#### ●回収状況

発送数：3,000

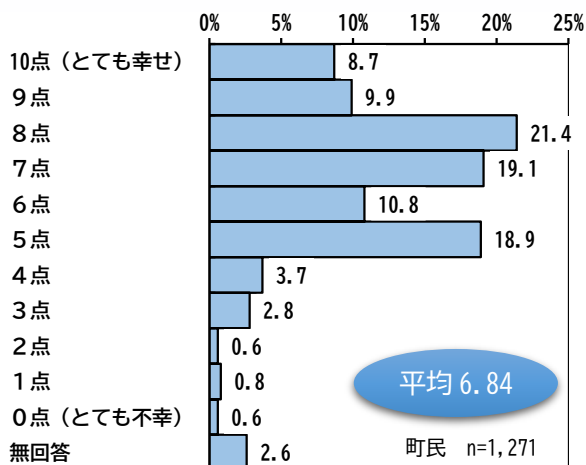
回収数：1,273

有効回収数：1,271（調査票に記入がない白票や、著しく回答が少ない調査票を除いた数）

有効回収率：42.40%

## 町民の幸福度を上げていくことが課題

設問：あなたは、現在どの程度幸せですか。(〇は点数に1つだけ)

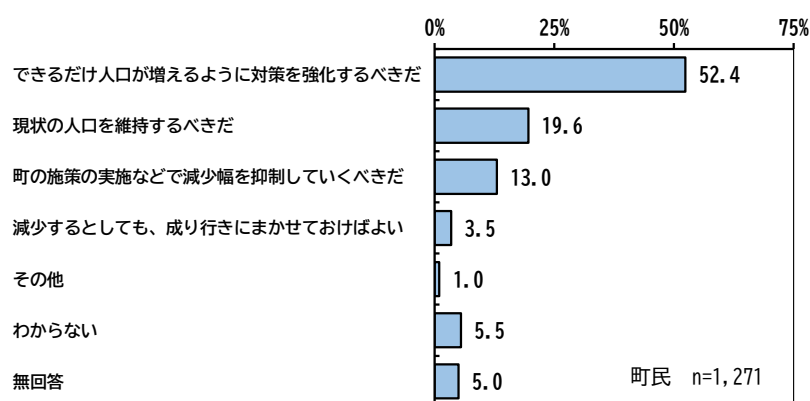


10点を「とても幸せ」、0点を「とても不幸」とした場合の現在の幸せの程度は、8点が21.4%と最も多く、次いで7点が19.1%、5点が18.9%となっています。

平均点は、6.84となっており、これを上昇させていくことが必要です。

## 人口減少に対する危機感は強い

設問：今後、山北町の人口対策をどのようにしたら良いと思いますか。(〇は1つだけ)

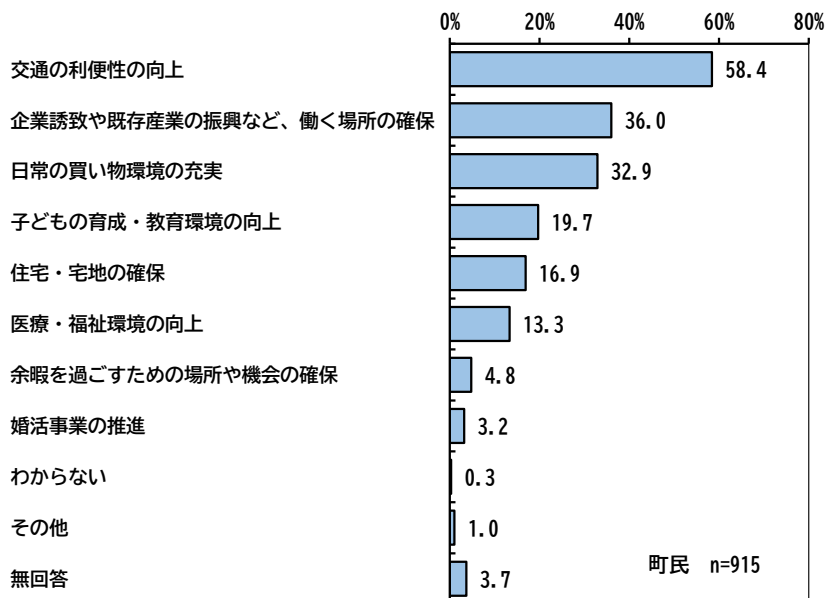


今後の山北町の人口対策は、「できるだけ人口が増えるように対策を強化するべきだ」が52.4%と最も多く半数を超えています。

町民からは人口増加対策を求められていると言えます。

## 交通の利便性・働く場所の確保・買い物環境の充実が求められている

設問：山北町の人口を増やすまたは減らさないためには、どのようなことが大事だと思いますか。(〇は主なもの2つまで)



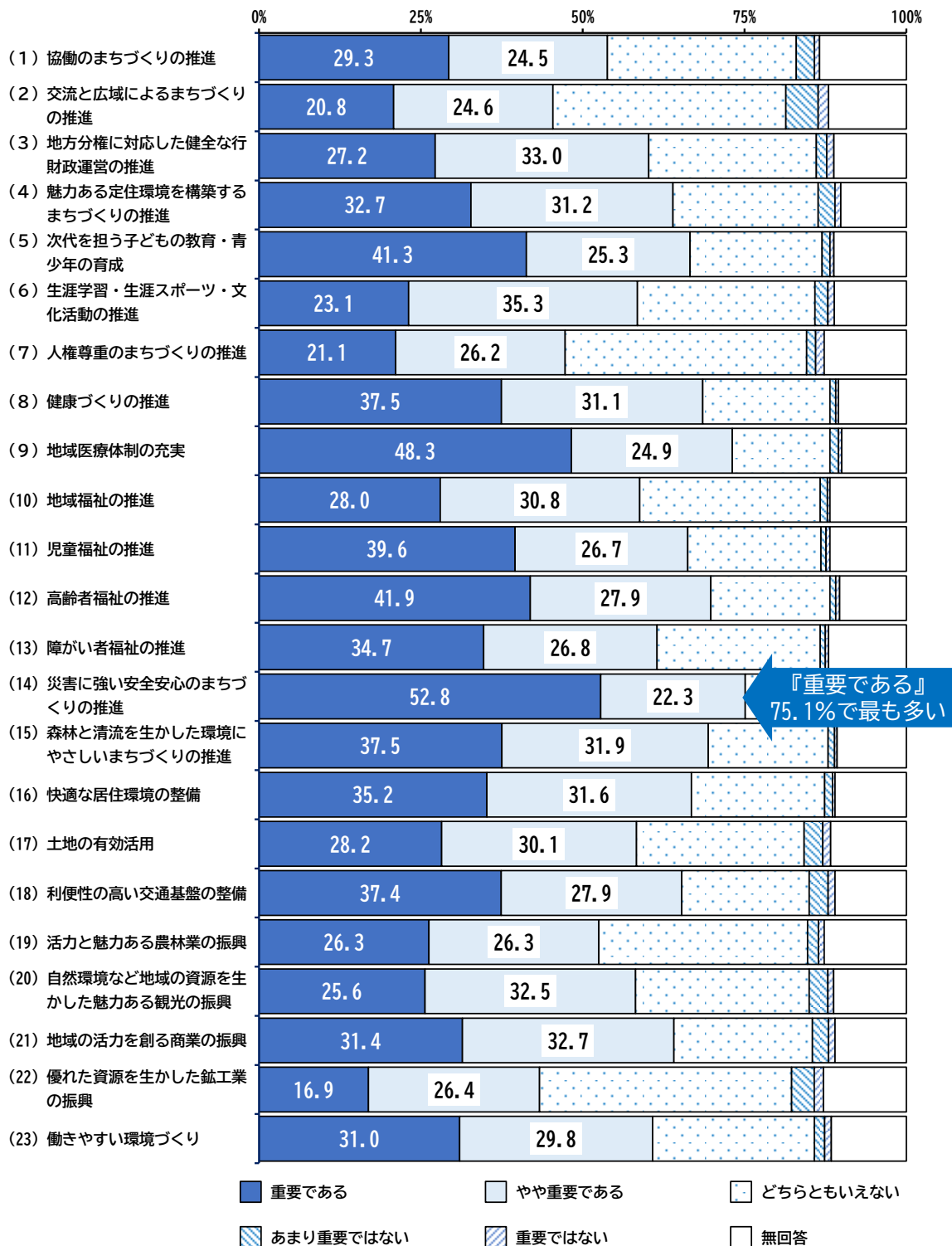
山北町の人口を増やすまたは減らさないために大事だと思うことは、「交通の利便性の向上」58.4%が最も多く、続いて「企業誘致や既存産業の振興など、働く場所の確保」36.0%、「日常の買い物環境の充実」32.9%となっています。

交通の利便性・働く場所の確保・買い物環境の充実の実現が求められています。

## 災害に強い安全安心のまちづくりが求められている

設問：山北町で推進してきた23の取り組みについて、重要度を教えてください。

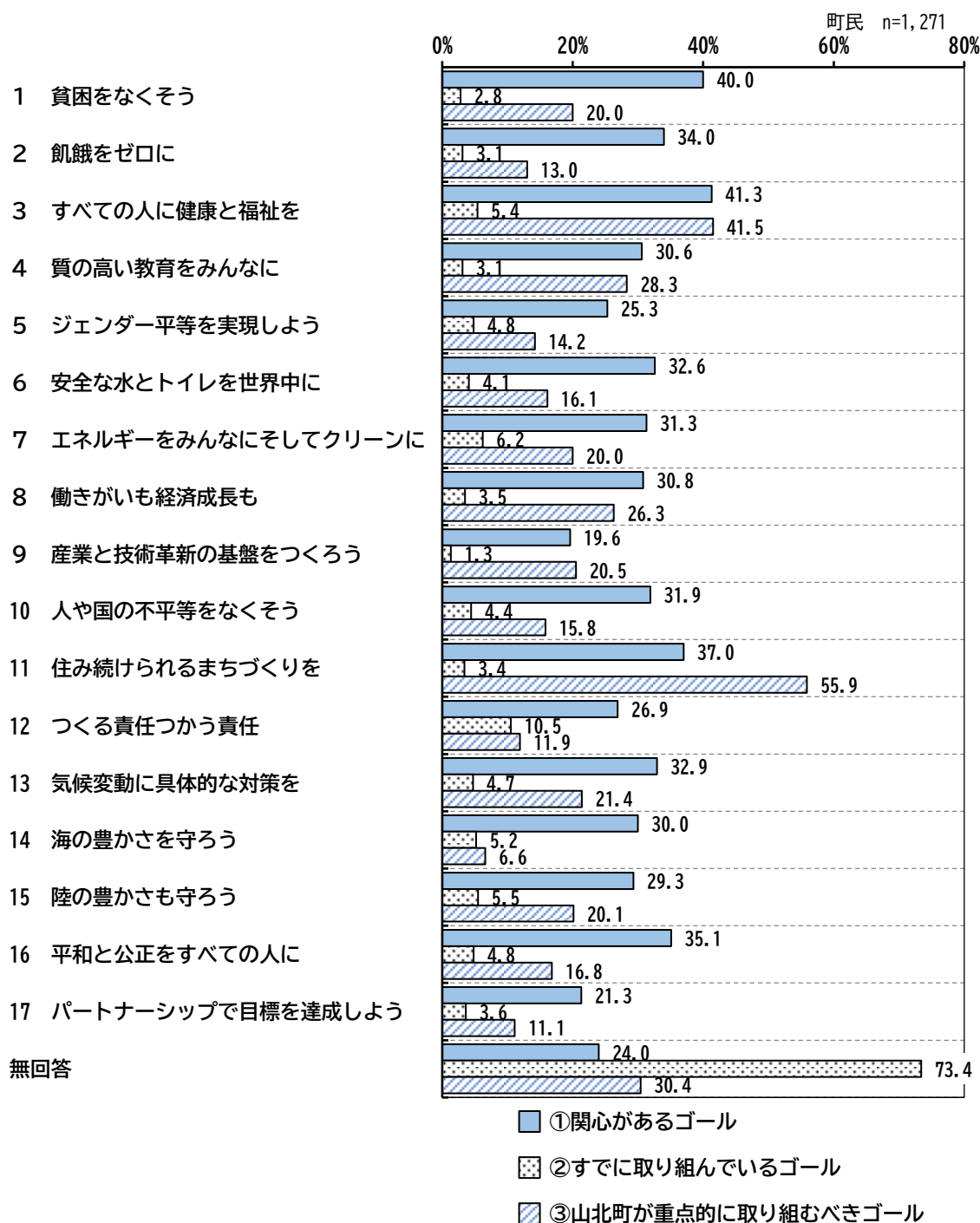
町民 重要度 n=1,271



23の取り組みの重要度は、(14) 災害に強い安全安心のまちづくりの推進で、「重要である」と「やや重要である」を合わせた『重要である』が75.1%で最も多くなっています。災害に強いまちづくりが必要です。

## 住み続けられるまちづくりが求められている

設問：SDGsの17のゴールのうち、①あなたの関心があるゴールは何ですか。②あなたがすでに取り組んでいるゴールは何ですか。③山北町が重点的に取り組むべきゴールは何だと思いますか。  
(〇はいくつでも)



山北町が重点的に取り組むべきゴールは、「11 住み続けられるまちづくりを」で55.9%と最も多くなっています。住み続けられるまちづくりを進めていくことが必要です。

## 各種団体調査

### <調査概要>

#### ●結果の概要

3世代が暮らせる活気と賑わいがある町、イベントへの参加者が増えるにぎやかな町、ふるさとを愛する心を育む持続可能な教育を推進できる町、老若男女の交流のある町、安心して暮らせる町などが求められています。

#### ●調査方法

調査期間：令和5年4月6日（木）～4月14日（金）

調査対象：山北町で活動されている9団体

山北町文化団体連絡協議会、山北町婦人会  
山北町PTA連絡協議会、山北町スポーツ協会  
丹沢湖観光連絡会、NPO法人情緒豊かな町づくり  
中川温泉旅館組合、老人会クラブ連合  
町ボランティア連絡協議会

調査方法：郵便配布・郵便回収

団体が抱えている  
悩みや課題

団体を構成する人員の減少、高齢化、役員のなり手不足、後継者問題といった、人材に関する課題が各団体共通の課題として挙げられました。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、活動の自粛や活動の停滞がみられる団体もありました。

5年後・10年後に  
希望する山北町の姿

少子化対策を行うことで子どもの人数が増え、子どもの笑顔があふれるまちに、また、活気と賑わいがあり、町民が経済的にも精神的にも豊かで、魅力あふれるまちに、といった意見がありました。また、観光名所や鉄道の町をPRしたり、新東名高速道路のスマートインターチェンジを活用したりすることで、元気なまちに、といった意見もありました。さらに、公共交通の充実や買い物環境の充実などにより、安心して暮らせるまちに、といった意見もありました。

## 山北町に移住・定住された方へのアンケート

### <調査概要>

#### ●結果の概要

未来の山北町の姿として、いつまでも子育て支援が充実している町、若い世代が交流でき、人もお店も増えて散策していて楽しい町、気軽に子どもを預けることができるなど女性の社会進出が進む町、山北町の自然やよさは生かしたまま都心部では体験できないものとふれあえる町、山北産の特徴ある野菜の栽培・販売、農業の勉強会がある町などが求められています。

#### ●調査方法

調査期間：令和5年4月6日（木）～4月14日（金）

調査対象：「サンライズやまきた」「ヒルズタウン丸山」「みずかみテラス」の居住者 89軒

調査方法：ポスト投函配布・郵便回収

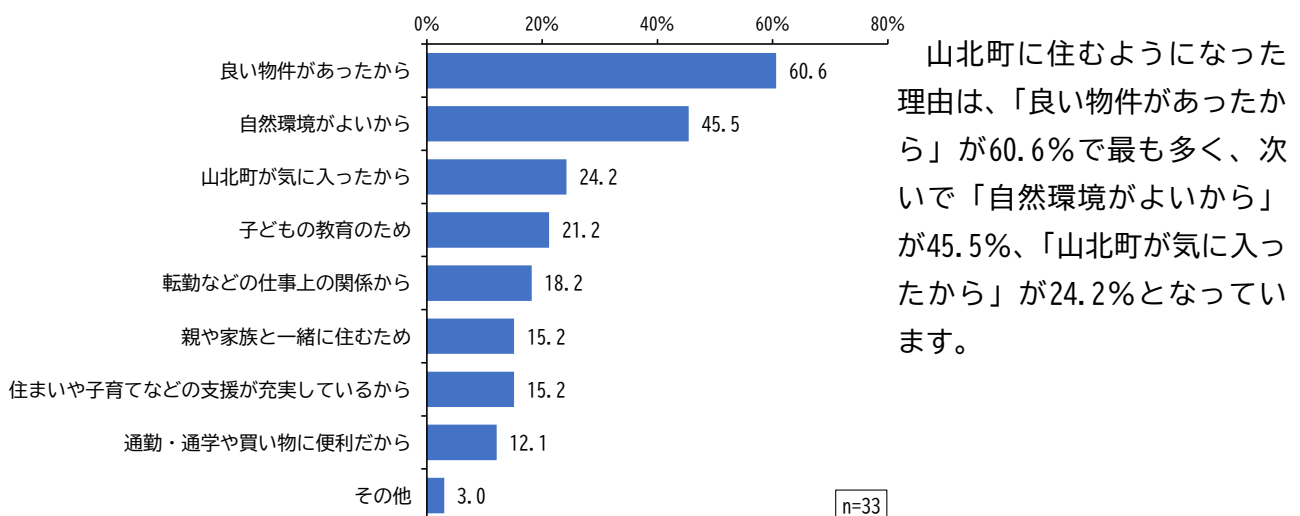
#### ●回収状況

回収数：33

回収率：37.1%

移住したきっかけは「良い物件があった」「自然環境がよい」が多い。

設問：山北町に住むようになった理由を教えてください。（○はいくつでも）



## 町民ワークショップ

(令和5年6月22日(木)実施。1グループ4名参加)

### 10年以上先を見据えて「こんなまちであってほしい！」

山北町の将来について自由なご意見をお聞きするため、「町民ワークショップ」を開催しました。山北町の10年以上先を見据えて「こんなまちであってほしい！」というテーマでワークショップを行い、まちの未来として『生きやすさ』が求められる結果となりました。『生きやすさ』の中には、“町民が町に関心をもてるまち” “高齢者と若者の交流のあるまち” “若者がイキイキ暮らせるまち”などが含まれ、「こういうまちがあったら絶対住みたいと思える」といった意見がありました。



### <参加した町民が描いた 未来の山北町の姿>

東京近郊にある深い自然、手つかずの山や川、深い森が残っている  
無理に開発することなく、自然と調和しながら暮らしやすいまちになっている  
若者のチャレンジを支援、空き家や空き店舗を活用している  
年齢・性別、先住・移住に関係なく、話し合えるまちになっている  
新しい価値観を取り入れ、実現しやすいまちになっている



## 中学生ワークショップ

(令和5年3月16日(木)実施。2グループ12名参加)

### 持続可能なまちづくりに向けて「50年後の山北町を描こう！」

次代を担う中学生から様々なご意見をお聞きするため、「中学生ワークショップ」を開催し、50年後どのような山北町になってほしいかを思い描いてもらい、その未来に向けて、まちづくりに何が必要なのかを考えていただきました。

はじめに、SDGsについて理解を深めるためオリエンテーションを行い、続いて『持続可能なまちづくりに向けて「みんなのできること」』をテーマにワークショップを行い、まちづくりに対する認識を皆で確認しました。その後、本題である『持続可能なまちづくりに向けて「50年後の山北町を描こう！」』をテーマにワークショップを行い、中学生の視点から様々な意見をいただきました。



#### <参加した中学生の描いた 50年後の山北町の姿>

産業をもっと発達させて、活気をうむ  
学校が新しくてきれい、楽しく学んでいる  
山北町の発信を多く行い、たくさんの人に来てもらう  
町に魅力を感じる人が増え、人口が多くなる  
伝統ある祭りを絶やさず、みんな楽しんでいる  
若い世代からシニア世代まで全員が楽しく暮らせる